

腎友会だより

初めてのことなのに

＜闘病記＞ 3

嘉東寿男

自覚症状

通院は二年が経過した。このころ二週間に一度になった。診察していた医師は、「人工透析になるかならないかどうか」ともいえないが、シャントは作っておいたほうがよい」といった。シャントとは、毎回血液透析で針を血管にさして血液をとりだしたりもどしたりする。そのために血液量が必要になる。そのことで動脈と静脈をつなぎ血液の流れを多くするため手術をし、血管を太くする。治療の一環だろうと承諾した。この手術のために三日間の入院が、私の人生にとって初めての入院経験となった。このころでもまだ人工透析をするなど、思いもつかなかった。その後は、難

なく過してはいたが、今振り返れば朝の寝起きがスムーズに出来なくなった。それも、六十五歳を過ぎればこんなものだろうと思いついていた。時々友人から「顔色が悪いがどうかしたか」と言われたが「ああそうですか」とかわしていた。そういえば、食事が旨いと思うことが無くなった。一年後、いつものように通院した。医師は「腎機能の数値が三ですよ、五以下なら透析しなければいけません、ほんとにこのままでは命の保証はしませんよ」といきなり告げられた。「解りました」と返事をするしかなかった。「初めてのことで」なのになんだか冷静だった。医師は「ただ、この透析を開始したら死ぬまですることになりますよ」と言った。「え！死ぬまでか」と一人つぶやいた。ここでも認識が甘



かった。血液を取り込むためにシャント（大動脈と静脈を交差させて、血管をつなぎ太くし血流量を増やす）手術は一年前にしていたので、すぐに透析に入ることができた。血液透析の準備のために一週間の入院をした。職場への勤務がどうなるのか気になった。場合によっては退職も考えなければいけない。勤務先の観光協会会長に、現状を報告した。会長は「勤務しながらやりなさい」とありがたいう言葉をいってくれた。人工透析をしながら仕事が出来ること、感謝をしなければならぬ。といっても、どんな生活リズムになるのか、わからない。「初めてのことで」だから……。まあ、何とかなるだろう……。（つづく）

会員にマスクを配布

「新型コロナウイルスから身を守りましょう」会員にマスクを配布

このほど、腎友会山陰労災病院支部（米子市皆生）では会員にマスクを配布した。腎友会は、腎臓疾患の患者や人工透析の治療を受けている患者の会で、45年前に結成された。主な活動は、腎臓病に対しての医療関係者による講演会や患者による懇談会などを開催している。今年度は通常総会を書面で行い、その経費をマスクの購入費に充てた。新型コロナウイルス（患者）を守るために今の情勢で、マスク入手が困難ななかで関係各所の協力により入手した。新型コロナウイルスは、免疫力が少ない透析患者にとって、マスクは必需品で、特にこの状況で、週3回4時間の治療に活用してもらいたい。そんな思いで各自に10枚配布した。



加藤会長より梅本美千代さんに贈呈

お知らせ

□支部総会の取り扱い
□コロナ感染対策で6月7日に予定していましたが、総会は、書面での総会とします。

5月中旬に総会議案書は配布します。

会員は、総会資料の承認を承認書に記入して提出をお願いします。

□県総会について
5月中旬に議案書を送ります。精査して委任状を送り返してもらいます。

8月3日に役員会を開催し総会の代替えとします。

自己管理

ドライウエイト(DW)

ドライウエイトは、血液透析で水分管理を適切に行うための目安になるものです。

体内に余分な水分がたまっていないときの体重で、透析終了時の目標体重です。

健康診断の目安にもちいられる標準体重とは全く異なる意味を持っています。

ドライウエイト決める目安として、顔や手足にむくみがないか、心臓が大きくないか心臓が大きくないか、血圧は正常かなどが参考にされます。

常に一定でなく、太ったり痩せたりしたときの状態や血圧などに応じ、定期的に直直されます。

監修：武蔵野徳洲会病院

鈴木洋通先生

【ぜんじんきょう